

## 「総務省インターンシップ体験レポート」

公共経営大学院1年

三浦 祐司

### 1. 実習の概要

実習先：総務省情報流通行政局 衛星・地域放送課

研究課題：我が国及び海外における 4K・8K 放送推進に係る取組の調査

実習期間：8月27日（月）～9月7日（金）

### 2. 実習のスケジュール

実習スケジュールとしては、10日間を通して課題の作業を毎日行ったほか、NHK等の関係企業等6か所を6日間で見学しました。また、4日間で4つの課の業務内容の説明を受けました。

### 3. 実習内容

実習内容は、4つに大別することができます。

1つ目は、総務省の業務内容の説明です。受け入れ先の課及びそれ以外の3つの課の業務内容の説明をしていただきました。2つ目は、関係企業等の見学です。見学は2種類に区分でき、受け入れ先の課が主催するものと、秘書課が主催するものがありました。前者は、受け入れ先の課の職員の方々とともに、業務上の関係企業等に出向くものです。後者は、他のインターン生とともに、総務省と関係のある企業、研究所等への訪問です。いずれも見学先では、業務内容の説明を受け、施設を見学させていただきました。

3つ目は、業務体験です。受け入れ先の課において省令の読み合わせ等の事務の一部を体験させていただきました。4つ目は、課題作業です。受け入れ先の課の担当者の方から課題を与えていただき、その調査とスライド作成の作業を行いました。最終日には、受け入れ先の方々に発表をさせていただきました。

### 4. 研究課題

研究課題は、「我が国及び海外における 4K・8K 放送推進に係る取組の調査」です。インターネットや様々な文献を用いて調査を行い、その調査の結果と考察、我が国の新 4K8K 衛星放送の視聴拡大のための周知・広報策の提言をスライドにまとめ、受け入れ先の方々に発表をさせていただきました。

### 5. 参加して得た成果・感想

実習を通して得た知識としては、最先端の ICT 技術、4つの課の業務内容、4K・8K 放送に関する我が国および諸外国の取り組みが挙げられます。実習を通して得られた成果は、4つあります。

1つ目は、総務省への理解が深まったということです。総務省の ICT 政策など、業務内容に対する理解が深まったということに加え、職場の雰囲気を感じることができました。2つ目は、職員の方々の業務への思いを知ることができたということです。高い志を持って、それぞれの担当業務に取り組んでおられるということ、職員の方々と交流させていただく中で知ることができました。また、職場において新聞記事や業務に係る雑誌の回覧など、情報収集や勉強が日々行われていることが素晴らしいと思いました。

3つ目は、広い視野を持って考えることが重要であるということを知りました。特定の業務に関して、雑務のように思っただとしても、全体を俯瞰して、その業務の意味を考えることが大切であり、すべての業務に何らかの意味があるということを知りました。しかし、業務の中には、効率化を図れる部分もあると感じました。また、広い視野という点では、今回のインターンシップを通じて総務省への関心が高まりましたが、今後のキャリアを考える際に、総務省に限らず、様々な省庁のことを知り、理解を深めることが大切であると感じました。4つ目は、納期の意識を再認識したということです。課題の作業の過程において、限られた時間の中でできるだけクオリティーの高いものを完成させることが大切であると再認識しました。これは、様々な仕事に通じるものがあるのではないのでしょうか。

## 6. おすすめポイント

実習のおすすめポイントは、2つあります。

1つ目は、職場の雰囲気を知ることができるということです。執務型の場合、実際の職場に席を与えていただけのため、業務への理解が深まることはもちろん、業務の様子や雰囲気等を肌で感じることができます。また、職員の方々と交流がしやすく、様々なお話を聞くことができます。

2つ目は、他のインターン生との交流が図れるということです。同時期に、他の課などでインターンを行っている学生とも交流の機会があり、情報交換などができ、刺激を受けることができます。私の場合、理系の学部生・院生など、普段交流する機会の少ない学生と交流することができました。

国家公務員を目指す学生にとって、霞が関インターンシップは、非常に有意義なものであると思います。少しでも興味があれば、ぜひ参加してみてください。得るものは必ずあると思います。